

補助事業番号 25-4-008
補助事業名 平成25年度 実態調査、現在・将来にわたるニーズ調査活動
(普及・啓発) 補助事業
補助事業者名 NPO法人 エコロジー・アーキスケープ

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

被災直後より支援してきた飯舘村の復興策を巡り、行政と多くの住民の考え方に差が生じている。同村の被災前の村づくりは、村民参加を基本としてきたが災害復興の場面でこれが活かされていない。そのため、弊会では村民自らが望む復興にかかる意見をワークショップ形式で出し合い、これを取りまとめ、村民が望む復興支援策を創出するため行政等に提案することを目的とした活動である。

(2) 実施内容

飯舘村の生活再建策（復興計画）と、弊会や村当局の実施した村民アンケートの結果を比較すると、多くの村民が希望しながらもメニュー化されていない施策が少なからず見ることができる。本事業は村民の生の声を取りまとめて村政に届け、施策化してもらうことを期待した取り組みである。対象は避難中の飯舘村民のうち、福島市内に避難していて荒井地区での生活再建を希望する人たち、伊達市内に避難する自治会加入者有志を対象に今後の生活再建にかかる課題や期待等を明らかにするワークショップを3回ずつ実施した。また、伊達市内の伊達東仮設自治会加入者に対しては18歳以上悉皆でのアンケートを実施している。これらをもとにして、被災者自身が望む生活再建支援策を要望書として取りまとめ、村議会に提出していく。こうした取り組みを通じて、例えば村外における災害公営住宅の拡充、村外生活再建者の資産管理策、さらには帰還する住民にとっての低線量被ばく対策支援策等が事業化されることを期待している。

【参照】弊会ホームページ

<http://www.ecology-archiscape.org/iitate/ringring.html>



2 予想される事業実施効果

村民が望む生活再建支援策の提案を受けて、行政がこれを拡充させていくことを期待しているが、容易なことではないと考えている。

一方で被災前の同村では、住民参加型の計画に基づく村づくりが行われてきたが、震災後の避難、生活再建等の場面においては広範な住民が当該テーマにかかる計画づくりに直接関与する機会は希薄であった。そのため、弊会では住民が直接、生活再建の希望等について発言、意見交換する機会を提供することを構想した。こうした機会に触発されて再び広範な村民が集い、課題に関する意見交換、調整を行いながらある回答を導いていく取り組みを盛んにしていくことが期待される（なお、本事業の期中に村当局でも集落別の議論の場を設けることとなった。帰還を考えていない人や、生活再建場所を決めることができていない人が多くを占める中で、議題が帰村率5割での村の再建テーマという前提条件という点は課題であるが、ある問題について衆知を結集して解決策を見出す方法を使った点では一歩前進である）。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

- ・伊達東村民生活再建ワークショップ通信（作成人件費は本事業対象、印刷配布は弊会経費）

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

・放射能公害被災地における復興計画と住民意向～福島県飯舘村を事例として～（浦上、糸長／2013年／農村計画学会誌32巻4号）

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： NPO法人 エコロジー・アーキスケープ

住 所： 〒108-0073

東京都港区三田2-7-9-1103

代 表 者： 代表理事 糸長浩司（イトナガコウジ）

担 当 部 署： ー

担 当 者 名： 副事務局長 浦上健司（ウラガミケンジ）

電 話 番 号： 03-5232-1080

F A X： ー

E - m a i l： eas@bronze.ocn.ne.jp

U R L： <http://www.ecology-archiscape.org/>